

専門科目

(運動機能科学コース開講)

<p>【科目名】 運動機能科学総論</p>	<p>【担当教員】 氏名 高橋 洋 [研究室] サテライトキャンパス</p>
<p>【授業区分】 運動機能科学コース開講科目</p>	<p>[内線番号]</p>
<p>【授業コード】 DBMH 117</p>	<p>[メールアドレス] hirosht@nur.ac.jp [オフィスアワー] 来学時に対応</p>
<p>【配当年】 1年次</p>	<p>【単位数】 1単位</p>
<p>【開講時期】 前期</p>	<p>【コマ数】 8コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>全コースの学生が必修科目</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>欠席する場合は担当教員への事前連絡により振替講義が可能な場合もある。事前連絡なく欠席の場合は担当教員の指示に従うこと。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>運動発達、運動学習、筋力・筋持久力、ストレッチングについて講義し、研究分野との関連を考察する。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの治療場面で活用される運動発達理論、運動学習理論について理解する。 ・筋力やストレッチ理論、姿勢運動制御について理解する。 <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究分野との関連性を考察できる。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>課した文献抄読、レポートの達成度等で総合的に判定する。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>特になし。</p> <p>随時プリントを配布する。</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>適宜</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	オリエンテーション、運動発達	運動発達に関する講義	運動発達理論、運動学習理論について復習・予習	40分
2	運動発達	運動発達に関する講義	運動発達理論、運動学習理論について復習・予習	40分
3	運動学習	運動学習に関する講義	運動学習理論について復習・予習	40分
4	運動学習	運動学習に関する講義	運動発達理論、運動学習理論について復習・予習。	40分
5	筋力・持久力	筋力・持久力に関する講義	筋力持久力について予習・復習	40分
6	ストレッチ理論	ストレッチに関する講義	ストレッチについて予習・復習	40分
7	ストレッチ	ストレッチに関する実技	同上	40分
8	まとめ	まとめ、今後の課題	事後：自分の研究計画に反映させる。	40分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

中枢神経系の臨床研究を計画するうえで必要な学修方法を学びます。事前準備が必須ですので、積極的に参加して自ら学ぶことの充実感を味わってください。

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

【科目名】 地域・老年期リハビリテーション論	【担当教員】 松林 義人 [研究室] A棟2階
【授業区分】 運動機能科学コース開講科目	[内線番号] 124
【授業コード】 dbMh 118	[メールアドレス] matsubayashi@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 火曜日 12時～13時
【配当年】 1年次	【単位数】 2単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 15コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 地域リハビリテーションの大枠について理解しておくこと。 《受講のルールに関わる情報》 文献レビューも行うため、地域リハビリテーションに関する文献を事前に調べておくことが望ましい。	
【講義概要】 地域リハビリテーションの定義や概念を理解するとともに、医療保険や介護保険領域での機能と役割、また各疾患に対する地域リハビリテーションのあり方を理解することを目的とします。また、介護予防など最近のトピックスにも焦点をあて、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等の視点から今後の地域リハビリテーションのあり方についてディスカッションをしながら学びます。	
【一般教育目標(GIO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域リハビリテーションの概要を理解する。 ・介護保険と医療保険について理解する。 ・高齢者の特徴を理解し、医療職種として取り組むべき内容を理解する。 	
【行動目標(SBO)】 地域リハビリテーションを理解し、今後の在り方や取り組みについて自ら提言することができる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート60%、ディスカッション20%、講義内での発表20%にて総合的に判断する。	
【テキスト・教科書】 特になし（講義中に随時紹介する）	
【指定図書・参考書】 特になし（講義中に随時紹介する）	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	地域リハビリテーションとは	定義、歴史、概念について	地域リハビリテーションの歴史を調べる	20分
2	医療保険と介護保険	医療保険と介護保険について	医療保険と介護保険の仕組みについて調べる	30分
3	高齢者の身体的変化	加齢に伴う身体的変化について	老年学（身体機能）	30分
4	高齢者の精神的変化	加齢に伴う精神的変化について	老年学（認知機能）	30分
5	医療分野における地域リハビリテーション	急性期・回復期・維持期におけるリハビリテーションについて	リハビリテーションの流れについて調べる	20分
6	介護保険におけるリハビリテーション	介護保険サービスにおけるリハビリテーションについて	介護保険サービスについて調べる	30分
7	介護予防1	サルコペニア、転倒予防に対する取り組みについて	サルコペニアについて	30分
8	介護予防2	認知症予防に対する取り組みについて	認知症について	30分
9	介護予防への取り組みの実際1（転倒予防教室への参加）	本学で実施している転倒予防教室に参加する	介護予防の取り組みについて整理する。	20分
10	介護予防への取り組みの実際2（転倒予防教室への参加）	本学で実施している転倒予防教室に参加する	介護予防の取り組みについて整理する	20分
11	高齢者・障害者を支えるための地域を考える1（ディスカッション）	地域リハビリテーションの関する文献レビューを行い、その内容についてディスカッションする	文献レビュー	60分
12	高齢者・障害者を支えるための地域を考える2（ディスカッション）	地域リハビリテーションの関する文献レビューを行い、その内容についてディスカッションする	文献レビュー	60分
13	地域リハビリテーションの在り方（発表）	今後の地域リハビリテーションのあり方について、自分の職域から提案する。	発表内容をスライドにする	120分
14	地域リハビリテーションの在り方（総括）	講義	講義内容を整理する	30分
15	まとめ	講義	講義内容を整理する	30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【教員からの一言】</p> <p>特になし</p>

【科目名】 運動機能障害特論（運動器・スポーツ障害）	【担当教員】 氏名 栗生田 博子 [研究室] A棟1階
【授業区分】 運動機能科学コース開講科目	[内線番号] 114
【授業コード】 Mh 121	[メールアドレス] aoda@nur.ac.jp [オフィスアワー] 月曜日昼休み
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>運動機能科学コースの院生は必修科目。</p> <p>運動器疾患やスポーツ傷害のリハビリテーション、もしくは障がいの有無を問わない体育・スポーツの実践に興味のある院生の受講を望む。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>事前に課題を提示するので、実施してくること。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>運動器疾患、特にスポーツ疾患の理学療法評価法に関する内容と併せて、障がい者のスポーツについて、スポーツ実施環境や身体機能評価方法などについて概説する。さらに、誰もが参加・活動できるインクルーシブスポーツと理学療法との関連について論議、考察する。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場に赴き、スポーツに関連したリハビリテーションや身体活動を実践するための基本的な知識を習得する。 <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に成長期のスポーツ傷害の特性を理解し、スポーツ現場に対応する理学療法の役割について考えることができる。 ・障がいの有無や性別、年齢を問わず誰もが参加できるインクルーシブスポーツを普及・発展させるための方策について、検討することができる。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>レポート評価（100%）にて成績判定を行う。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>特に指定しない</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>講義の中で随時紹介する</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	運動器疾患のリハビリテーションに対する基本的な考え方 (1)	運動器疾患のリハビリテーションに必要な評価の基本について概説する	準備) 症例検討の準備	60
2	運動器疾患のリハビリテーションに対する基本的な考え方 (2)	運動器疾患のリハビリテーションに必要な評価の基本について概説する	準備) 症例検討の準備	60
3	症例検討 (1)	臨床で経験した症例について、ディスカッションを通じ再検討を行う	事後) 症例検討の内容をまとめる	60
4	症例検討 (2)	臨床で経験した症例について、ディスカッションを通じ再検討を行う	事後) 症例検討の内容をまとめる	60
5	スポーツ傷害のリハビリテーション	スポーツ傷害のリハビリテーションに関する事例を概説する	事前) スポーツに関する疾患と理学療法の復習	60
6	障がい者のスポーツと理学療法	障がい者のスポーツとそれに関わる理学療法に関する事例を概説する	事後) レポート作成	60
7	インクルーシブスポーツと理学療法 (1)	理学療法をベースとして、体育・スポーツ現場に理学療法士が関わる可能性について概説する	事後) レポート作成	60
8	インクルーシブスポーツと理学療法 (2)	理学療法をベースとして、体育・スポーツ現場に理学療法士が関わる方法や内容を具体的に検討する	事後) レポート作成	60

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

健常者・障がい者を問わず身体活動を展開するための手段として、理学療法の役割や可能性を検討し、広げたいと考えています。

<p>【科目名】 生活機能障害作業療法学</p>	<p>【担当教員】 氏名 北上 守俊 [研究室] D棟1階 共同研究室</p>
<p>【授業区分】 運動機能科学コース開講科目</p>	<p>[内線番号] 402</p>
<p>【授業コード】 bMh 122</p>	<p>[メールアドレス] kitakami@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 木曜日：13:00～18:00</p>
<p>【配当年】 1年次</p>	<p>【単位数】 1単位</p>
<p>【開講時期】 後期</p>	<p>【コマ数】 8コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>特になし。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>最新の情報や知見をとることを意識付けて下さい。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>人が生きることの全体像とは、生活機能をとらえることである。生活機能障害作業療法学では、対象者がその人らしい生活を再構築するための支援のあり方について探求する。対象者の背景を考慮し、生活機能を3つのレベル「心身機能・構造」「活動」「参加」の全体を見落としなくとらえ、作業療法サービスを効果的に提供するにはどのようにすればよいかを検討する。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人が生きること」を包括的・総合的にとらえる見方・考え方の「共通言語」を身につける。 ・対象者にとって意味のある生活を再構築できる支援のあり方を理解する。 <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者にとって意味のある生活を適切に評価できる。 ・意味のある生活を再構築するための支援のあり方を検討することができる。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>レポート50%、授業・課題への取り組み50%の割合で総合的に評価を行う。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>特に指定しません。</p> <p>プリントを配布します。</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>資料を中心とし、随時紹介します。</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	近年の研究動向について	作業療法の研究動向について、最近のトピックスに関する事など	特になし	0分
2	自動車運転と公共交通機関の利用について	高齢者や高次脳機能障害など、自動車運転及び公共交通機関の利用について	事前又は事後に提示	60分
3	社会参加について	精神障害や高次脳機能障害などの就労支援について	事前又は事後に提示	60分
4	意味のある作業や生活行為について	生活行為向上マネジメントなど	事前又は事後に提示	60分
5	意味のある作業や生活行為について	生活行為向上マネジメントなど	事前又は事後に提示	60分
6	「生活障害」における実践の効果検証	論文講読	事前又は事後に提示	60分
7	「生活障害」における実践の効果検証	論文講読	事前又は事後に提示	60分
8	地域における作業療法の現状と今後について	地域での取り組みなど	事前又は事後に提示	60分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
<p>生活障害に対して支援することの重要性を認識し、社会や地域の人々の生活に還元して行って下さい。</p> <p>他職種の方も「作業療法」に興味を持って、柔軟な思考と広い視野を活用し、講義に参加して下さい。</p>

【科目名】 生活環境科学（住環境・ADL）	【担当教員】 氏名 栗原 トヨ子 [研究室] A棟1階 内線116
【授業区分】 運動機能科学コース開講科目	[メールアドレス] kurihara@nur.ac.jp
【授業コード】 dMh 123	[オフィスアワー] 在室時対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特記なし 《受講のルールに関わる情報》 特記なし	
【講義概要】 人間としての生活の分析、社会生活を送る上で関連してくる公共交通機関や公共建築物などの現状、改善のポイントなどについて取り上げていきたいと考えています。 【一般教育目標(GIO)】 住環境の違いが障害のある人の生活に及ぼす影響について模索することができる。 【行動目標(SBO)】 ADL、APDLの諸要素を分析し、障害の種類や程度に応じた改善の可能性を提示できる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 出席時のディスカッション参加程度（50%）、レポート（50%）の割合で評価する。	
【テキスト・教科書】 必要に応じて資料を配付	
【指定図書・参考書】 特になし	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	ADL・APDL の概念	人間にとって、ADL と APDL の違い	復習と次回テーマについて予 習	90分
2	ADL 評価の構造	日常生活をどのような面から測定するか	復習と次回テーマについて予 習	90分
3	公共建築物、公共交通機関等の建築指 針	公共建築物の範囲等	復習と次回テーマについて予 習	90分
4	住環境と建築	日本と欧米の住環境	復習と次回テーマについて予 習	90分
5	認知症者の住まい	認知症者の特徴と住まいの問題	復習と次回テーマについて予 習	90分
6	車いす使用者の住まい	車いす使用者の特徴と住まいの問題	復習と次回テーマについて予 習	90分
7	住宅改修例	介護保険との関係	復習と次回テーマについて予 習	90分
8	症例検討	症例検討	復習と症例検討のまとめ	90分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

身体的障害を持っているために様々な不利を被っている人の不利の解消に知恵を絞っていくヒントを持ち寄りたいと期待します。

【科目名】 物理療法学特論	【担当教員】 浅海 岩生 [研究室] E棟1階
【授業区分】 運動機能科学コース開講科目	[メールアドレス] igasami@nur05.onmicrosoft.com
【授業コード】 m 124	[オフィスアワー] 月曜～金曜 12:10-13:00
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 ・この授業はWEB授業対応授業です。インターネットで受講を希望する学生は申し出てください。(Office365の設定が必要です。) 《受講のルールに関わる情報》 ・課題は必ず期限内に出すようにしてください。(課題提出はOneNoteで行ってください。)	
【講義概要】 この講座では、物理療法の各種の治療手技を概説すると共に最近の物理療法の進歩についても討論していく。授業は講師による講義の後、受講学生に与えられた課題の発表・討論という形で進めていく。 【一般教育目標(GIO)】 ・物理療法の各種の治療技法を知る。 ・物理療法の最近の進歩について知る。 【行動目標(SBO)】 ・物理療法の各種の治療手技について説明できる。 ・物理療法の最近の進歩について説明できる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 ・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・成績評価は、レポート50%、発表30%、授業に取り組む姿勢20%とする。	
【テキスト・教科書】 ・必要に応じ資料を配布する。	
【指定図書・参考書】 ・Michelle H. Cameron 編、渡部一郎 監訳、普及版 EBM 物理療法 原著第2版、医歯薬出版株式会社、2006年、¥8,600+税	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	・オリエンテーション (Office365 の使用方法を含む) ・温熱療法・寒冷療法の最近の進歩	・授業の進め方を説明する。 ・講義、討論	・事前に配布する資料を読んでおく。 ・ノート整理	60分 30分
2	・磁気刺激療法の最近の進歩	・講義、討論	・事前に配布する資料を読んでおく。 ・ノート整理	60分 30分
3	・光線療法の最近の進歩	・講義・討論	・事前に配布する資料を読んでおく。 ・ノート整理	60分 30分
4	・超音波療法の最近の進歩	・講義・討論	・事前に配布する資料を読んでおく。 ・ノート整理	60分 30分
5	・バイオフィードバック療法の最近の進歩	・講義・討論	・事前に配布する資料を読んでおく。 ・ノート整理	60分 30分
6	・CPM療法の最近の進歩	・講義・討論	・事前に配布する資料を読んでおく。 ・ノート整理	60分 30分
7	・物理療法の研究動向	・講義・討論	・事前に配布する資料を読んでおく。 ・ノート整理	60分 30分
8	・学生課題発表	・物理療法分野で学生自身が興味ある分野を選び、その分野の最近の研究事例を発表する。	・事前の文献収集 ・文献レビュー ・プレゼン作成	60分 120分 60分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

・必ず事前学修を実施してください。

【科目名】 精神・認知機能障害作業療法学	【担当教員】 氏名 澁井 実
【授業区分】 運動機能科学コース開講科目	[研究室]
【授業コード】 bmh 125	[オフィスアワー]
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特になし。 《受講のルールに関わる情報》 特になし。	
【講義概要】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知機能に関連する脳機能系を理解し、正常なメカニズムを学ぶ。その上で、障害がどのような機序で生じるのかを講義する。 ・ 多くの精神疾患は、認知機能障害による生活上の障害を有する。具体的な症状、評価方法、現在行われている治療方法を踏まえ、根拠があるリハビリテーション方法を考案できるようにする。 【一般教育目標(GIO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知機能に関連する脳部位とその関係を理解できる。 ・ 認知機能の障害を由来とする生活上の障害について理解できる。 ・ 認知機能の障害に有効なリハビリテーションの手法を理解できる。 【行動目標(SBO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 陰性情動と認知機能に関連する脳部位を図示し、その関係を説明できる。 ・ 認知機能に由来する生活上の障害と有効なリハビリテーションの手法について説明できる。 	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート100%で評価する。	
【テキスト・教科書】 資料を配布する。	
【指定図書・参考書】	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	脳の構造と機能 1	脳全体の構造と機能局在	学習した内容の復習	90 分
2	脳の構造と機能 2	脳機能の局在	学習した内容の復習	90 分
3	記憶・学習のしくみ	記憶と学習の主座	学習した内容の復習	90 分
4	感情・思考・ストレス反応のしくみ	情動の形成と表出のしくみ ストレス反応が起こるメカニズム	学習した内容の復習	90 分
5	陰性情動と脳機能	ストレスが体や脳に与える影響 睡眠による記憶・学習機能の向上	学習した内容の復習	90 分
6	統合失調症と脳機能・有効なリハビリテーション	統合失調症の発症機序・症状・経過・予後。エビデンスのある治療法	学習した内容の復習	30 分
7	抑うつ障害群と脳機能・有効なリハビリテーション	抑うつ障害群の発症機序・症状・経過・予後。エビデンスのある治療法	学習した内容の復習	30 分
8	不安障害/不安障害群と脳機能・有効なリハビリテーション	パニック障害及び強迫性障害の発症機序・症状・経過・予後。エビデンスのある治療法	学習した内容の復習	30 分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

【科目名】 作業活動分析学	【担当教員】 氏名 長崎重信（非） [研究室] 非常勤講師室
【授業区分】 運動機能科学コース開講科目	[内線番号]
【授業コード】 M 126	[メールアドレス] shignaga@bgu.ac.jp [オフィスアワー] 来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>特になし</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>特になし</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>作業活動を通して作業を分析することができるようになる。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>作業療法分野における作業活動分析を実際に体験し、それを通して作業活動を分析できる。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 作業活動を体験することができる。 2. 作業活動の工程を分析できる。 3. 作業活動を身体的、心理的、社会的側面から分析することができる。 4. 作業分析を通して、対象者へのアプローチを考えられるようになる。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《基礎知識を提供し、作業体験を通して、作業分析とは何かを理解してもらう。結果として、レポートにて作業への理解、作業分析、作業の適応を理解したか、判定する。(レポート100%)</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>資料を配付します。参考書として以下のものを提示します。</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>長崎重信監修、浅沼辰志編集： 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業学 改訂第2版 メジカルビュー社 2015</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修時間(分)
1	作業とは何か？	1.作業療法における作業 2.作業学とは 3.作業を用いた療法に関連する基本 事項	学習した内容の復習	60分
2	個別作業の体験	個別作業を通して、作業が人に与える 影響を考える。作業工程表の作成。	学習した内容の復習	60分
3	個別作業の分析	作業分析表を用いて、作業活動を分析 する。	学習した内容の復習	60分
4	分析結果の解釈 課題：生活時間表の記入	分析結果をまとめる	レポートの作成 生活時間表の記入	レポート作成、生活時 間表の作成 (120分)
5	生活時間表の解釈、集団作業 の体験	集団作業を通して、作業が人に与える 影響を考える。作業工程表の作成。	学習した内容の復習	60分
6	集団作業の分析	作業分析表を用いて、作業活動を分析 する。	学習した内容の復習	60分
7	分析結果の解釈	分析結果をまとめる	学習した内容の復習	60分
8	健康な人への作業活動の提供	作業療法アプローチを考える	レポートの作成	レポート作成 (90分)

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
実際の作業活動を通して、作業の分析方法を提示します。体験を通して理解を進めてもらえたらと思います。

【科目名】 中枢神経疾患治療技法	【担当教員】 氏名 高橋明美 [研究室] A棟1階
【授業区分】 運動機能科学コース開講科目	[内線番号] 112
【授業コード】 bM 127	[メールアドレス] akemi.t@nur.ac.jp [オフィスアワー] 月～木：9：00～18：00 金：13：00～18：00
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】 特記なし</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>講義および発表する形式で行う。また、発表した内容と講義で教授した内容についてはレポートにまとめ提出する。</p> <p>なお、発表の課題は初回の講義時に提示する。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》 特記なし</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>中枢神経疾患の中で、脳卒中は最も多い疾患である。脳卒中による障害に対するリハビリテーションは、運動器疾患と並んで関わりが多く、また近年脳卒中者に対する技法は、ロボット技術を使用したものまで多岐にわたる。本講義では、脳卒中片麻痺者の障害を理解し、その障害に対してどのような治療技法が考えられ、実践されているかを教授する。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>脳卒中片麻痺患者の本質的な障害と治療法を理解する。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢制御システムについて説明できる ・姿勢制御の障害について説明できる ・脳卒中片麻痺者に対する治療法を説明できる ・クリニカルリーズニングに基づく治療法の原理と手技について説明できる 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>課題に対する発表 50%、レポート 50%で総合的に評価する。</p>	
【テキスト・教科書】 プリントを配布する	
【指定図書・参考書】 その都度紹介をする	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外標準 学修時間(分)
1	神経系の基礎知識	脳の構造や機能、脳内ネットワークについて	脳の解剖学について関連書籍にて予習しておくこと	30分
2	随意運動に関わる神経機構と制御機構の障害について	脳卒中者の障害の本質である姿勢制御システムとその障害について	姿勢制御システムについて関連書籍を参考にまとめておくこと(復習)	30分
3	脳卒中者に対する治療技法①	従来からの技法について	脳卒中片麻痺者に対する治療として、従来から用いられている技法について調べておくこと(予習)	30分
4	脳卒中に対する治療技法②	ロボットを使用した技法	ロボット技術がどのように活用されているか講義内容をまとめておくこと(復習)	30分
5	脳卒中に対するクリニカルリーズニング	クリニカルリーズニングについて	クリニカルリーズニングについて予習しておくこと	30分
6	障害別クリニカルリーズニング	皮質脊髄路障害のクリニカルリーズニング	皮質脊髄路障害について予習しておくこと	30分
7	発表	最近の知見を調べ、発表する	初回講義に提示された、課題についてパワーポイントで発表できるように、準備する	30分
8	総括	講義全体のまとめと、脳卒中リハビリテーションの今後について	課題に対して、レポートにまとめる	120分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

講義テーマや内容は前後する可能性があります

【科目名】 動作測定技法 I	【担当教員】 浅海 岩生 [研究室] E棟1階
【授業区分】 運動機能科学コース開講科目	[メールアドレス] igasami@nur05.onmicrosoft.com
【授業コード】 dM 128	[オフィスアワー] 月曜～金曜 12:10～18:00
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 ・授業にはパソコンを持参してください。教材の配布はOffice365で行います。 《受講のルールに関わる情報》 ・課題は必ず期限内に出すようにしてください。(課題提出はOneNoteで行ってください。) 	
【講義概要】 ・この講座では、人間の動作を力学的に分析する手法を学びます。最初に合成重心の求め方そして動作時の重心点の移動・加速度・関節モーメントの求め方を解説した後、三次元動作分析装置のデータをもとに、その分析方法について検討する。 【一般教育目標(GIO)】 ・人体の重心点の移動について理解する。 ・動作時の加速度・関節モーメントについて理解する。 ・三次元動作分析装置について理解する。 【行動目標(SBO)】 ・重心動揺計の測定値を分析できる。 ・三次元動作分析装置の測定値を分析できる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 ・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・成績評価は、レポート50%、発表30%、授業に取り組む姿勢20%とする。 ・1日分の講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は他に課題を課す。	
【テキスト・教科書】 ・必要に応じ資料を配布する。	
【指定図書・参考書】 ・ 江原義弘、山本澄子：ボディダイナミクス入門 立ち上がり動作の分析、医歯薬出版株式会社	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	・オリエンテーション (Office365 の使用方法を含む) ・合成重心の求め方	・授業の進め方を説明する。 ・講義、討論	・重心の求め方について調べておく。 ・ノート整理	60分 30分
2	・立ち上がり動作での重心移動 ・ビデオによる動作分析	・講義、討論 (運動機能科学実験実習室) ・ビデオ画像の解析	・立位保持の制御機構について調べておく。 ・測定データを分析する。	30分 60分
3	・床反力の測定法	・講義・討論 (運動機能科学実験実習室) ・踏み出し動作を床反力計で測定する。	・床反力計の概要を調べる。 ・測定データを分析する。	30分 60分
4	・重心動揺計の使用方法和分析手法	・講義・討論 (運動機能科学実験実習室) ・立ち上がり動作を動作分析する。	・立ち上がり時の重心移動について調べておく。 ・測定データを分析する。	30分 60分
5	・床反力と加速度	・講義・討論 (運動機能科学実験実習室) ・歩行時の床反力を測定する。	・歩行時の床反力について調べておく。 ・測定データを分析する。	30分 60分
6	・動作時の関節モーメント	・講義・討論 (運動機能科学実験実習室) ・肘関節の関節モーメントを測定する。	・関節モーメントについて調べておく。 ・測定データを分析する。	30分 60分
7・8	・三次元動作分析装置実習(1)、(2)	・講義・討論 (運動機能科学実験実習室) ・三次元動作分析装置を用いて歩行を測定する。	・教材動画を見ておく。 ・測定データを分析する。 ・課題レポート提示	30分 120分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】
・必ず事前学修を実施してください。
・測定や分析が行われたコマはレポートを提出すること。

【科目名】 動作測定技法Ⅱ	【担当教員】 浅海 岩生 [研究室] E棟1階
【授業区分】 運動機能科学コース開講科目	[メールアドレス] igasami@nur05.onmicrosoft.com
【授業コード】 M 208	[オフィスアワー] 月曜～金曜 12:10～13:00
【配当年】 2年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この事業ではパソコンを使用します。毎回持参してください。 ・教材の配布は Office365 で行います。 <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題は必ず期限内に出すようにしてください。(課題提出は OneNote で行ってください。) 	
<p>【講義概要】</p> <p>この講座では、動作時の筋肉の活動状態を筋電図学的に分析する手法を学びます。最初に筋電図とは何か、また測定的基本的原理について解説していきます。筋電図の基本的分析手技として数値化されたデータの計算法について学び、実際に反応時間の測定、動作学的筋電図、筋トルクと筋電図の同時測定を行いその分析を実習します。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋電図の基本的原理を理解する。 ・表面筋電図の測定手技について理解する。 ・筋電図の代表的分析手法について理解する。 <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋電図の基本的原理を説明できる。 ・表面筋電図の測定が行える。 ・筋電図の代表的分析方法を実施できる。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・成績評価は、レポート 50%, 発表 30%, 授業に取り組む姿勢 20%とする。 	
<p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ資料を配布する。 	
<p>【指定図書・参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内山靖 他 編集：計測法入門 測り方、計る意味、共同医書出版 5775 円 	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	・オリエンテーション (Office365 の使用 方法を含む) ・筋電図の基礎的理解	・授業の進め方を説明する。 ・講義	・筋電図について調べておく。 ・ノート整理	60分 30分
2	・表面筋電図の測定	・筋電図の基本的測定方法を体験する。 ・ポリグラフシステムの使用 ・実習(運動解析室)	・前回の資料、教材動画を見ておく。 ・レポート作成	30分 60分
3・4	・筋電図の分析手法(1) ・筋電図の分析手法(2)	・EMG のデジタル処理を学ぶ。 ・EMG を PC で分析してみる。 ・実習(運動機能科学実験実習室)	・教材動画を見ておく。 ・レポート作成	30分 60分
5・6	・筋力と筋電積分値を比較し関連を分析する。	・上腕二頭筋に負荷する重りを変化させ、筋電積分値を測定する。 ・実習(理学療法実習室 1)	・筋張力と筋電図の関係について調べておく。 ・レポート作成	30分 60分
7・8	・筋電図を用いた反応時間の測定について	・筋電図と加速度計を用いた反応時間の測定法を学ぶ。 ・実習(運動機能科学実験実習室)	・教材動画を見ておく。 ・反応時間について調べておく。 ・レポート作成	30分 60分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

・必ず事前学修を実施してください。

<p>【科目名】 徒手医学特論</p>	<p>【担当教員】 氏名 高橋 洋 [研究室] サテライトキャンパス</p>
<p>【授業区分】 運動機能科学コース開講科目</p>	<p>[内線番号]</p>
<p>【授業コード】 m 130</p>	<p>[メールアドレス] hirosht@nur.ac.jp [オフィスアワー] 来学時に対応</p>
<p>【配当年】 1年次</p>	<p>【単位数】 1単位</p>
<p>【開講時期】 後期</p>	<p>【コマ数】 8コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>実技を行う時は、動きやすい服装を準備すること。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>腰痛疾患、肩関節疾患について基本的なことを復習しておくこと。</p>	
<p>【講義概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・痛みに関する基本的知識、痛みの評価法、痛みに対する理学療法の手段を教授する。 ・腰痛疾患、肩甲帯・肩関節疾患の痛みに関する理学療法について教授する。 <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・痛みについての基本的知識、評価法、理学療法について理解する。 ・腰痛疾患、肩の痛みに関する理学療法を理解する。 <p>【行動目標(SB0)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・痛みについての基本的知識、評価法を説明できる。 ・腰痛疾患、肩甲帯・肩関節疾患に関する痛みについて説明できる。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>レポート100%で評価する。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>資料を配布する。</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>特になし</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	オリエンテーション、痛みについて	痛みの基礎	レジメを復習、予習	30分
2	痛みについて	痛みの基礎	レジメを復習、予習	30分
3	痛みについて	痛みの評価	レジメを復習、予習	30分
4	痛みと理学療法	触診、ストレッチングの実技	レジメを復習、予習	30分
5	痛みと理学療法(1)	マイオセラピー講義・実技	レジメを復習、予習	30分
6	痛みと理学療法(2)	腰痛疾患の理学療法講義・実技	レジメを復習、予習	30分
7	痛みと理学療法	肩関節疾患の理学療法講義・実技	レジメを復習、予習	30分
8	まとめ	研究との関連を考える	研究内容を整理する	30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

痛みの対処法を知ることで、運動療法を行う準備となります。

【科目名】 生活支援デバイス論（補助具など）	【担当教員】 氏名 栗原 トヨ子 [研究室] A棟1階
【授業区分】 運動機能科学コース開講科目	[メールアドレス] kurihara@nur.ac.jp
【授業コード】 dM 131	[オフィスアワー] 随時対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特記なし 《受講のルールに関わる情報》 特記なし	
【講義概要】 リハビリテーションには、麻痺などにより機能低下が生じた身体の機能回復に対する「機能回復アプローチ」と福祉用具の利用により困難または不可能な動作を可能にする方法として「代償的アプローチ」の2つがある。一般に初期の段階では「機能回復アプローチ」がなされるが、疾病や傷害の程度によってはいずれプラトーに達する時期があるが、そのような場合でも「代償的アプローチ」を効果的に導入することにより生活障害を軽減できることを修得する。	
【一般教育目標(GIO)】 日常生活の中での活動の種類・障害・制限について関係づけて考える。	
【行動目標(SB0)】 日常生活活動の種類と障害による様々な制限を軽減するための福祉用具を挙げるができる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 出席時のディスカッション参加程度（50%）、レポート（50%）の割合で評価する。	
【テキスト・教科書】 必要に応じて資料配付	
【指定図書・参考書】 特になし	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	福祉用具の概念、福祉用具法について	福祉用具とは 福祉用具法の成立過程	復習と次回テーマの予習	90分
2	暮らしと人間工学	福祉用具と日常生活	復習と次回テーマの予習	90分
3	福祉用具の評価法	福祉用具の評価法の実例	復習と次回テーマの予習	90分
4	介護保険と福祉用具	介護保険で利用できる内容と範囲	復習と次回テーマの予習	90分
5	ADL 活動の分析と代償方法 (食事)	食事行為を助ける種々の SHD と障害との 関連	復習と次回テーマの予習	90分
6	ADL 活動の分析と代償方法 (排泄・入浴)	排泄・入浴行為を助ける種々の SHD と障 害との関連	復習と次回テーマの予習	90分
7	ADL 活動の分析と代償方法 (コミュニケ ーション)	コミュニケーションを助ける種々の SHD と障害と の関連	復習と次回テーマの予習	90分
8	事例検討	復習と事例検討	まとめ	90分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【教員からの一言】

機能障害の補完方法として様々な方法があることを学び、自らも応用して作り出していける力を身に付けて下さい。

【科目名】 運動発達障害特論	【担当教員】 氏名 押木 利英子 [研究室] A棟1階
【授業区分】 運動機能科学コース開講科目	[内線番号] 113
【授業コード】 dbMh 132	[メールアドレス] oshiki@nur.ac.jp [オフィスアワー] 月、水、木 在室時
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>基本的な正常運動発達について理解している、または興味・関心があることが望ましい。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>文献レビューを行うので、事前に運動発達障害に関する文献を調べておくことが望ましい。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>運動発達障害の概念や発生機序を理解するとともに、症例検討を通して運動障害児の治療効果検証について理解することを目的にします。また、文献レビュー等を通して最新の知見を学び、PT, OT, STの視点から小児リハビリテーションあり方について学びます。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動発達障害の機序について理解する。 ・運動発達と知覚・認知・行動発達の関係性について理解する。 ・運動発達障害に対する最新の知見を習得する。 <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児リハビリテーションのフィールドにおいて、運動発達の重要性と具体的な提言が出来る。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・レポート50% ディスカッション30%、講義内の発表・態度20%にて総合的に判断する。 	
<p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし（講義中に随時紹介する） 	
<p>【指定図書・参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし（講義中に随時紹介する） 	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	運動発達概論	運動発達の機序について概説する	運動発達障害について調べる	60分
2	運動発達障害論(1)	“動くこと”“動けること”(発達の原点)の意味を考える。	文献検索 関連する文献を読む	60分
3	運動発達障害論(2)	運動発達障害アプローチ理論を概説する。	文献検索 関連する文献を読む	60分
4	事例検討(1)	実事例やモジュール(仮想事例)を用いて症例検討を行う。	提示された事例について検討する。	60分
5	事例検討(2)	実事例やモジュール(仮想事例)を用いて症例検討を行う。	提示された事例について検討する。	60分
6	関連する文献抄読(1)	運動発達障害に関する文献レビューを行い、その内容についてディスカッションする。	文献レビュー	120分
7	関連する文献抄読(2)	運動発達障害に関する文献レビューを行い、その内容についてディスカッションする。	文献レビュー	120分
8	まとめ	1~7のまとめ	レポート作成	60分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【教員からの一言】</p> <p>ともに学びましょう。</p>
